



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2022年 No.2
(通巻74号)
4月16日発行

4月となり、多くの会社や学校が新年度を迎えました。皆様や皆様のまわりでも、新たな出発をされた方がいらっしやると思います。

コロナ禍に加え、地震、ウクライナ侵攻など心騒ぐ出来事が続きますが、それでも春は来るという事実
に励まされながら、希望を持って日々を過ごしていきたいと思っております。

さて、バオバブの会は昨年末で活動を終了し、本年度は整理の年となっております。

2008年2月より続けてまいりましたニュースレターも、今号で最終となります。

長い間お読みいただき、ありがとうございました。

最終総会報告

去る3月13日（日）、保土ヶ谷アワーズにて、バオバブの会の最終総会を行いました。コロナ禍で「文書送付による総会」が続いたため、3年ぶりに皆様とお会いしての総会となりました。当日は総会資料をもとに進められ、ディウフ会長による、ビデオを使つての活動報告も行いました。

主な内容をご報告いたします。

1. 2021年度活動報告

(1) 国内活動

*コロナ禍のため、外部イベント出展はできませんでした。

*会主催イベントとして、「リモート料理教室」を、ZOOMによるライブ（6月）と見逃し配信（8月、9月）を行いました。また、12月には、アフリカンレストラン「カラバッシュ」に於いて、2日間、「セネガルフェア」を開催しました。

*運営委員会は14回開催、その内5回はZOOM、またメッセージャーにより行いました。

*ニュースレターは5号発行しました。

(2) 国外活動

*サルム・ジャネ中学校OBプロジェクトからの戻り金の一部で、クール・サロリ・ブーヤ小学校の鶏小屋計画に400,000Fcf (80,000円) の支援を行いました。その後、昨年度は全部で5回、ひよこの飼育が行われ、育つた鶏を売つた収益は、中学校を受験する6年生用のノートや模擬試験用紙購入に使われました。このひよこ飼育は、現在も継続して行われています。

*「リモート料理教室」の収益は、共同開催のWITH PEERと、ユネスコクラブ（クールマジヤベル聾啞学校）に送りました。WITH PEERでは、セネガルに於けるブラインドサッカー実施費用の一部となり、ユネスコクラブでは、学校施設の整備と教材や学用品購入に使われました。

2. 2022年度活動計画

(1) 国内活動

*在庫品（ケベサック、アクセサリー、本他）と用具（テント、鍋他）の整理と処分を行います。

*活動記録の整理として、活動報告書作成とことわざコラムのHP掲載を行います。

なお、HPは2026年まで残していく予定です。

(2) 国外活動

*下記のように最終の支援金を送付します。

・定期支援をしてきた学校

中学校2校、小学校9校、イスラム系学校3校、ユネスコクラブ

・運動会プロジェクト

サーバシ・チャム小学校の第1回運動会（6月開催予定）

・クール・サロリ・ブーヤ小学校鶏小屋計画

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第40回 最後のアクロバット

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

（訳・文責 水野）

既にお知らせしたとおり、バオバブの会は、昨年末をもって活動を終了しました。セネガルの子どもの教育を支援してきた22年間の活動の中で、セネガル、アフリカと日本の文化交流も重要な柱でした。特に、組織を整え任意団体として再出発した2008年以降は、国際フェスティバルへの参加、セミナー、音楽やダンスのライブ開催などをとおして、セネガル、アフリカの文化や社会の慣習を紹介してきました。ニュースレターの中に『ことわざで開くアフリカ文化の窓』を作ったのも、そのひとつでした。

ニュースレターが今号で最終となるのに伴い、このコラムも最終回となりますが、そのタイトルを「最後のアクロバット」としたことについてお話ししたいと思います。

ご存じのように、このコラムの中では、過去また現在のできごと、政治や経済の分析から、連帯、平和、もてなしといった普遍的なものまで、広く言及してきました。ことわざをとおして、このように多彩なテーマをあつかうということ自体に、まさにアクロバットのような難しさがありました。

そして、次のようなことわざの3つの性格によって、難しさはより大きくなったように思います。

まず、ことわざは、短い文章で構成され、その中で完結しているということがあげられます。そのため、ひとつのことわざを紹介するために、言葉を付け加えたり、逆に削り落としたり、表現を変えたりする必要が出てきます。その過程で、ことわざの意味や対象を変えることなく、できるだけ正確に伝えるよう、十分に気を配らなければなりません。

二つ目には、ことわざは、遠い昔から長い時間をかけて、人々の口から口へと伝えられてきたものということがあります。そのため、ことわざは、昔の人々の智慧や経験や助言の宝庫となっているわけです。しかし、人々の暮らし方や考え方や価値観というものは、時と共に変わります。ですから、今となつては、ことわざを生み出した地域の人々にさえ理解できないところがあったり、現実と合わないものになっていることがあります。それを、違う地域の人々に、違う言語でお伝えしようとするのですから、簡単な

わけがありません。

さらに、ことわざは、観念的なものではなく、人々の実際の経験をもとに成立したものです。そのため、ひとつのことわざをお伝えするためには、しばしば、背景となっている社会の文化や慣習を説明することが必要になります。ひとつの例をあげましょう。以前、ご紹介したことわざに、「もしお前の頭の上で水かめが割れたら、その水で体を洗え」というのがあります。これはブルキナファソのモッシの人々のことわざですが、理解していただくためには、アフリカの家庭ではどのようにして水を得ているのかを知っていただかなければなりません。アフリカの田舎では、現在でも、頭に水かめを載せて、井戸から家まで水を運ぶということがよく行われています。この水かめは、通常、土を焼いて作られているため、割れやすいのです。それで、もし頭の上で割れてしまったら、その水で体を洗えと言って、悪いことが起きたら、嘆くばかりでなく、良いことに変えるように、と教えているわけです。なお、この仕事は主に女性が担当しますので、アフリカの女性たちは、頭に何かを載せて、手を自由にしたまま、自然にバランスをとって歩くことができることを伝える機会にもなります。

このような作業は、文章や翻訳のプロではない私たちにとって大きなチャレンジでした。始めたのはいいけれど、果たして続けていけるのだろうか？と何度も思いました。それなのに、いったいどんな力で、40回まで続けることができたのでしょうか。

ウガンダのルニョロの人々のことわざ、「上下の歯が出会って骨を砕く」を覚えていらっしゃいますか？実は、連帯や共同の大切さを語るこのことわざのように、読んでくださる皆様からの感想やご意見が励ましとなり、私たちだけではなく、皆様と一緒に作っている、という思いが、大きな力となったのです。さらに、次回はもっと喜んでいただけるようなコラムにしよう、という気持ちが沸き起こり、ここまで続けることができたのだと思います。

ですから、今、皆様にお贈りするの、やはり、このことわざ以外にありません。カメルーンのバムーンの人々のことわざ、「犬は主人に感謝の気持ちを伝えたいとき、ただ尻尾を振る」です。

さて、今は、イスラム暦の9月、ラマダンです。この聖なる時にあたり、私はひとりのムスリムとして、私の人生の中でもとりわけ日本で過ごす年月に、皆様という素晴らしい人々を、私のまわりに友として置いてくださったことを、神に深く感謝しています。

というのも、私は、運命があることを信じているからです。日本にやってきたときから、私たちは、おおよそ、あらかじめ決められた道に沿って生きている、ということに疑うことができなくなりました。実は、9歳のとき、ひとりのおじいさんと出会いました。その人は、私をまっすぐに見て、私の目を奥までのぞき込むようにして、こう言いました。「お前のように遠くまで旅をすることになる人間を、今まで見たことがない。お前は遠くに行つて、よその国の人々に囲まれて暮らすだろう。そして、幸いにも、その人々と仲良くやっつけられるだろう」

このことを思い出したのは、20年後、初めて東京に向かう飛行機の中でした。あのおじいさんの顔と言葉がはっきりと蘇ってきたのと同時に、あの人には正しかった、それまで私がやってきたことのすべて、良いことも悪いことも、成功も失敗も、すべてが日本に来るためだった、と感じたのでした。

そして、あのおじいさんのもうひとつの言葉も正しかったのです。私は、日本で、皆様と仲良くやっつけいくだけでなく、皆様から大いに助けていただいて、バオバブの会を作り、このように長い間、活動を続けることができたのですから。

これを思うとき、聖なる月、ラマダンの祈りの中で、皆様の幸福を願わずにはられません。

どうか、皆様と皆様の近い人々に、末永い平安と健康と繁栄がもたらされますように！

バ オ バ ブ の 会

〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目8-7 TEL 045 - 373 - 0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先: ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★Mail : info.the.baobab.assoc@gmail.com

HP内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★Face Bookページ名 : バオバブの会The Baobab Association

URL : <http://www.facebook.com/the.baobab.association>